

8-2-2 水底の底質

工事の実施時における工事施工ヤード及び工事用道路の設置により、水底の底質へ影響を及ぼすおそれがあることから、環境影響評価を行った。

(1) 調査

1) 調査すべき項目

調査項目は、水底の底質の状況とした。

2) 調査の基本的な手法

文献調査により、文献、資料を収集し整理した。文献調査の結果を踏まえ、過去、現在において水底の底質の汚染が認められた地域の有無等について、関係自治体等にヒアリングを行った。

3) 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲の内、山岳トンネル、非常口（山岳部）を対象に工事施工ヤードの設置に伴い河床の掘削を行う河川とした。

4) 調査地点

文献調査地点は、調査地域の内、既存の測定結果が存在する地点とした。

5) 調査期間

文献調査時期は、最新の資料を入手可能な時期とした。

6) 調査結果

文献調査の結果、調査地域内に既存の測定結果が存在する地点は確認されなかった。

また、文献調査に加え、関係自治体等へのヒアリングを行った結果、工事施工ヤードの設置に伴い河床の掘削を行う大井川、西俣川では、過去及び現在において水底の底質の汚染は確認されなかった。

(2) 予測及び評価

1) 予測

ア. 予測項目

予測項目は、工事施工ヤードの設置に係る水底の底質への影響とした。

イ. 予測の基本的な手法

工事の実施に伴う、水底の底質に起因する周辺への影響を明らかにすることにより定性的に予測した。

ウ. 予測地域

予測地域は、工事施工ヤードの設置に伴い河床の掘削を行う河川とし、調査地域と同様とした。

エ. 予測地点

予測地域の内、河川の分布状況を考慮し、工事施工ヤードの設置に係る水底の底質に起因する影響を適切に予測することができる地点とした。

オ. 予測対象時期

予測対象時期は、工事中とした。

カ. 予測結果

文献調査の結果、工事施工ヤードの設置に係る水底の底質の汚染は確認されなかった。また、本事業では、工事の実施において有害物質を新たに持ち込む作業は含まれていないことから、工事施工ヤードの設置に係る水底の底質への影響はないと予測する。

2) 評価

ア. 評価の手法

ア) 回避又は低減に係る評価

事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減がなされているか検討を行った。

イ. 評価結果

ア) 回避又は低減に係る評価

本事業では、工事施工ヤードの設置による水底の底質に係る環境影響はないと判断されるため、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られていると評価する。